



御紹介いただきました京都府舞鶴市長の多々見良三でございます。境港市での総会開催、誠におめでとうございます。今ほど、次期30年度の総会開催地として舞鶴市に決定いただきましたことに心から感謝を申し上げます。

さて、舞鶴市であります。国際観光都市 京都市から北に約100キロ離れておりまして、2年前に京都縦貫自動車道というのが開通しましたので、JRで来るよりは、高速道路を使って来ますと約1時間余りで舞鶴市に到着できる、大変便利な状況になっております。

舞鶴市は古くから海とともに発展してきた町でありまして、古くは江戸時代に北前船の寄港地として、明治34年には海軍鎮守府が開庁、1905年にロシアのバルチック艦隊をやっつけた東郷平八郎率いる艦隊が出航したのもこの京都舞鶴港であります。こういった中で、残念ながら戦争が拡大し、終戦を迎えたわけでありまして、当時、660万人の方が海外に取り残されていたわけでありまして、その1割、66万人の方を13年間にわたり受け入れた町でもあります。

一方、商業港としましては、軍港ができた12年後、1913年に商業港として整備をされまして、戦後はロシアと木材輸入等で役割を担っておりましたが、その後は、湾内に180万キロワットの火力発電所ができ、石炭の輸入等で貢献してきたわけでありまして、大きく変わりますのは、2011年に日本海側拠点港に選定されたということでありまして。1つは国際海上コンテナ、2つ目には国際RORO船、そして、

3つ目には外航クルーズという3つの部門で日本海側拠点港に選定されたこと。加えて、京都縦貫自動車道、舞鶴若狭自動車道が開通いたしまして、高速道路と港がつながるといふ非常に画期的な環境改善があり、大変発展している状況であります。国際海上コンテナにつきましては、拠点港に選定されたときと比べまして約3倍の取扱量になっております。また、クルーズ船も当時から見ますと約10倍、今年は、39隻のクルーズ船が来ております。また、フェリーにつきましては、もともと小樽との国内フェリー港でありましたけども、現在はロシア、韓国、そして境港、舞鶴という国際フェリーが週1便動いておりますので、本当に様々な部門において港の活性化が得られている状況であります。まさに関西経済圏における日本海側のゲートウェイ、特に東アジアに向けてのゲートウェイとして、韓国やロシアや中国に向けての輸出入に非常に重要な役割を果たしていると考えております。今、国土交通省や京都府の皆さんの大きな支援によりまして、この京都舞鶴港、海の京都駅という名称で今、発展させようとしているところであります。

その中で、来年、日本海にぎわい交流海道ネットワーク総会の開催をしていただきますことは、こういった港の発展の弾みになるということで大変期待している次第であります。皆様方の来年度のお越しを本当に心からお待ち申し上げますとともに、すばらしい会になるように努力していきたいと思っております。来年のお越しを期待いたしまして、次期開催地としての挨拶とさせていただきます。来年、よろしく願いいたします。